

(訳者から：始めに) この論文の原題は「真のホロコーストは黒人に対してのものである」  
The real Holocaust is that of Blacks (by Maria Poumier) であり、イズラエル・シャミール  
のHPに寄せられたものである。(原文 Url は次の通り)

<http://www.israelshamir.net/Contributors/Poumier.htm>

著者 Maria Poumier は、パリ第8大学の哲学科教授を退職した後、欧州の翻訳者集団で  
ある Tlaxcala のメンバーとして活動している。

この文章はいくつかの宗教的、歴史的な予備知識が無いと理解しづらいのだが、私から  
の解説は翻訳と訳注の後につけることにして、まず訳文にお目をお通しいただきたい。訳  
文中の**(1),(2)...**は訳注を示す。

\*\*\*\*\*

## 真のホロコーストは黒人に対してのものである

マリア・ポウミエル著

訳：童子丸 開

怒るべき、そしてこれを知るべき時だ。ナチ・ユダヤ・ホロコースト (Nazi-jewish H)  
はヨーロッパの兄弟間の内戦**(1)**であったに過ぎない。そしてキリスト教徒は、歴史的そし  
て民族的な両方のレベルで、このゴルディウスの結び目**(2)**を断ち切るための剣を手にして  
いるのだ。

1：本当のホロコーストがある。それは何百万のアフリカ人に対するものだ。彼らは幾世  
紀もの間あらゆる白人達から人間ではないと見なされてきた。これこそ、人間を家畜とし  
て取り扱う本当のホロコーストだ。軽蔑はギリシャの時代に始まったように思える。ギリ  
シャの哲学、宗教、そして数学はエジプトのおかげであった。しかしその影響がなくな  
って以後は、白人の国々は「ヌビア」を彼らの現実感覚からあまりにも遠い神話の国として  
無視し始めた。

ヨーロッパ人による黒人奴隷産業が始まった1542年のことだが、それは教皇ニコラ  
ス5世によってポルトガル人の特権として承認され推奨された。(この国はすでにスペイン  
系ユダヤ人の避難所となっており、彼らはアラブ世界へ向けての最大の奴隷商人となっ  
ていたのだ**(3)**。)そしてこの種の奴隷化が巨大な人間取引産業となったとき、キリスト教国の中  
でこれに抗議する大きな声は一つとして起こらなかった。

ラス・カサス (Las Casas) **(4)**はスペイン王国を説得してアメリカ・インディアンたちを  
兄弟として、つまりヨーロッパ人と同じ魂を持つものとして認めさせた。彼は晩年に自分  
が若いころに犯した過ちを認めた。アフリカ人をインディアンと取り替えて鉱山や建設や  
プランテーション農場開拓での酷い労働をやらせるように提案したことである。しかしラ  
ス・カサスは、「黒いインディアン」たちも同様に完璧に人間であると教皇に説得するよう

な努力は何一つしようとしなかった。こうして本物の巨大なホロコーストが続いた。奴隷制の廃止は、奴隷達の反乱があまりにも多く起こり黒人達がマローン(5)になるべく大量に脱走したときにやっと成功した。白人の奴隷制廃止の動きはほとんど無かったのだ。黒人達を支援するのにより積極的だったのは女性達だった。彼女らが自分達の自由と人権を求めて同様の戦いを起こしていたからであった。ご存知のように、今日、黒人達の叫びは白人達によって共感を持って聞かれることが無い。我々はおおかた無関心である。「それは彼らの問題であって我々の問題ではない」とでもいうように感じながら。具体的な反乱の脅威があるときにだけ、我々は彼らが何を求めているのかに注意を払う。黒人ホロコーストは今も起こり続けている。アフリカで起こるあらゆる血みどろの紛争の中である。新植民地主義勢力が鉱物資源、石油、そして土地を支配するために、謀略をめぐらせて流血の「部族的」「種族的」洗浄を奨励することによって競い合っているのだ(6)。現在、ブッシュは石油を求めてナイジェリアを分捕る準備をしている。こうして我々は新たなホロコースト、新たな独自のホロコーストを経験することになるだろう。黒人達が厳密には我々の兄弟ではなくある意味で人間未満であると我々が感じているからこそアフリカの大虐殺は起こるのである。十全な人間性はユダヤ人に対しては決して否定されなかった。彼らは他の民族に対して自分達を尊重させることに成功した。同情するかどうかの一つの目安である。ユダヤ人たちはまさに戦争で資産を失った白人としての、あるいはそれ以上の同情を受け取る。彼らが権力を持てば持つほど多く受け取るのである。(7) しかし白人達は最大のホロコースト、黒人達のそれについては同情する考えを自動的に拒否するのだ。白人達の資本は奴隷貿易に直接につながっており、我々の背負う負債をあらゆる企業の貿易と税金の記録によって計算する方法が数多くあるにも関わらず。

2：完全に正しい一人のホロコースト否定者がいる。イエス・キリストだ(8)。たった一人のものではあったが、彼の人間としての犠牲はあらゆる虐殺を無にしてしまう。彼は、不当な刑罰を受け入れ、無実の者として、全人間性の名において、あらゆる人間に対する虐殺に対して彼の犠牲が持つ意味を与えた。彼はホロコースト否定者である。彼がそれを受け入れて補償を求めることをしなかったからである。彼はホロコースト否定者である。我々に殺された一人の無実の者は数百万人と同等であることを彼が教えたからである。もしホロコーストがある一人の名もない哀れな人間の犠牲を意味するといふのであれば、広い世界で起こるあらゆるホロコーストは、通常の犯罪あるいは事故として、その影を失ってしまう。たぶん一部の「学者たち」が言うように、イエスは実在の人物ですらなかつただろう。しかし彼は、なぜ我々が無実の人々を、あらゆる文明の人間を、決して殺してはならないのかを説明するという仕事を行ったのである。

実際のところ、もしイエスが幻影に過ぎないものであったとしても、ユダ達は完璧な現実だ。そして我々の時代における彼の名はシオニスト新植民地主義である。惨めで無価値な使用のためだけで無実の人間達を売り飛ばし、石油やダイヤモンドなどを求めるためだけで人々を殺している。20世紀においてシオニストたちはパレスチナの植民地所有者と

して、無実のユダヤ人の家族をヒトラーおよび西側「民主主義」にパレスチナを買う代価として売り渡した。(9)

3：黒人達は毎日、復活と許しが現実のものであることを我々に教える。我々のすべてが間違いなく現実に罪を犯しているにも関わらず、彼らは我々の世界の中でこの世にある意味を持たせる思想家であり音楽家なのだ！ ときどき我々は黒人達を騒音を立てて人々をうるさがらせるものとしてだけ見てしまうのだが、彼らはまさしく『意味を成して』おりそのようなことを埋め合わせているのである。我々シャミールHPの読者は石油よりも音楽を好み、シオニスト＝ネオコンの支配計画よりも人間性を好んでいる。あらゆる国で、黒人と白人が良い計画、深く根を下ろした計画に参加することが最も良いことだ。しかし、分かっているなければならない。ギリシャ風合成語で盲目にされてはならない。我々反シオニストの白人が『最高の存在』でも暗闇の中の『光』などでもないのだ。まさに彼らこそが、最も否定された者達こそが、そして犠牲にされてきた彼らこそが、我々にその道を教え示してくれるのである。我々は未だに、ギリシャ人たちがそうであったように、意味の解らぬ翻訳者なのだ。

この人倫の法則に対する一つの極めて単純で宇宙的で伝統的な解釈が存在する。北の極は支配を意味し、東の極は知識を意味し、西の極は活動を意味し、そして南の極は心を意味する。というものだ。白人達は常に支配者として振舞う。それが活動だからだ。しかし彼らは砂上に楼閣を建てる。他の極を忘れるからである。【翻訳終り】

#### 脚注：

(1) 「ナチによるユダヤ・ホロコースト」を『ヨーロッパの兄弟間の内戦』と呼ぶことは読者を驚かせるかもしれない。確かにユダヤ人たちは「キリスト教欧州で唯一存在を許された異教徒集団」だったのだが、キリスト教徒白人にとって宗教的にも本来の「姉妹」であり、ユダヤ教が「姉御格」である。そして世俗世界では2000年近く共同で(決して仲良くという意味ではないが)欧米支配の世界を作り上げてきた、文字通りの「同類」なのだ。これに関しては後の解説で説明しよう。

(2) 「ゴルディウスの結び目」は、アレキサンダーが一刀両断に断ち切ったと言われる結び目で『これを解く者はアジアの王になる』という託宣があった。一般に解決の極めて困難な問題を指す。

(3) アフリカからアメリカ大陸への黒人奴隷貿易をもユダヤ人たちが主体的に担ったことについて、<http://www.blacksandjews.com/Jews.of.Black.Holocaust.ag.html> “Jews of the Black Holocaust” をご参照願いたい。ここには奴隷貿易に主体的に携わったユダヤ人たちの一覧と、ユダヤ教ラビ Rabbi Bertram W. Korn 氏による次のような告発が紹介される。

「結論から言えば、自らが奴隷を買い求めて所有できた(それを必要とした)すべてのユダヤ人たちが実際にそのようにしたことは事実である。...ユダヤ人たちは無力な黒人達を故郷から狩り出すあらゆる場面とプロセスに参加したのだった。」

そして欧米は近世以降、植民地と奴隷貿易によって蓄積された資本を元に、キリスト教徒とユダヤ人の共同作業で大きく発展・繁栄することになるのだ。

(4) ドミニコ会に所属した16世紀のスペインの修道士

(5) 西インド諸島で逃亡した黒人奴隷集団。後にハイチを建国する主体となる。

(6) ギニア湾沿岸やスーダンの石油資源については言うを待たない。他の有名な例としては、アンゴラやモザンビークの金やダイヤモンドなどの利権を巡る争い、またコンゴの内戦の裏にコルタンと呼ばれる鉱物の獲得競争があった。このコルタンから取れるタンタルという金属は携帯電話や一部のコンピュータ部品にとって必要不可欠な原材料である。アフリカの独裁、反乱、そして内戦の影に資源獲得を狙う欧米の資本と兵器産業があることはよく知られている。

(7) 著者は次の参考文献を指定しているのだが現在このサイトに接続できない。

<http://www.iht.com/articles/ap/2007/03/20/business/NA-FIN-US-Holocaust-Claim>

(8) カトリックの伝統的な神学では、アダムによってもたらされた人類の罪が神の子であるイエスの死によってあがなわれた、ということになる。もちろん著者のポウミエルは無神論者であるが、彼女はこの教義の形を借りて話を進めている。

この段落で著者は、イエス・キリストが無実の罪で虐殺され、しかもその報復も補償も要求しなかったことについて「ホロコースト否定者」と呼んでいる。これは明らかに、「Nazi-jewish H」の上に作られたイスラエル国家と、それへの報復的な補償を現在までドイツ人に求め続け同情によって支配的な地位を勝ち取ることに成功したユダヤ人支配層を意識してのことである。

欧米人とユダヤ人によって虐殺され続けるアフリカ人たちは同情も補償も受けることがないのだ。それはとりもなおさず、キリスト教の欧米とユダヤの両方が真の「キリスト殺し」にほかならないことを意味している。

(9) シオニストがイスラエル建国のために数多くのユダヤ人たちをヒトラーの手に渡したことについては『真相の深層』誌2007夏第14号の「イスラエル暗黒の源流：ジャボチンスキーとユダヤ・ファシズム」《第6部 イスラエルの母胎：ナチス・ドイツ》(石峰昇一著)をご参照いただきたい。

また『西側「民主主義」に』売り渡したという点については『真相の深層』誌2007貼る第13号の「**全訳 ユダヤ教のゴイム・バージョン：リベラリズムの暴政**」(イスラエル・シャミール著、拙訳)をご参照いただきたい。もちろんこの『西側「民主主義」』というのは、ナチズム・ファシズムを育てた米欧ユダヤ文明のもう一つの顔に過ぎない。

\*\*\*\*\*

訳者：童子丸 開 (どうじまる あきら) : [akiradoujimaruru@hotmail.co.jp](mailto:akiradoujimaruru@hotmail.co.jp)

在スペイン、作家、翻訳家。季刊『真相の深層』誌に数多くの寄稿を行う。

『真相の深層』誌 : <http://www.jca.apc.org/~altmedka/shoten-sinsou.html>

2007年9月には著書《「WTCビル崩壊」の徹底研究：現代評論社》を発表。

注文 : <http://www.jca.apc.org/~altmedka/shoten-wtc.html>

日本における911事件の真相究明の第一線を担っている。